

リハビリテーション論文の正しい書き方 第4回

「総合リハビリテーション」編集委員会

11. 本誌への投稿

Q18 各投稿欄の位置づけは？

A18 本誌における各投稿欄の位置づけを以下に示します。

【研究と報告】

- ① いわゆる原著論文であり、何らかのオリジナリティ（新しさ）がなければいけません。
- ② 本誌で取り上げているテーマは大変広範囲ですが、障害やリハビリテーションにかかわるテーマの研究でなければいけません。

テーマがリハビリテーション分野に関するものであり、オリジナルな内容のものを科学的な手順を踏んだ原著として報告してください。また、オリジナリティとリハビリテーションの発展に役立つような意義の両方がなければいけません。

【短 報】

「研究と報告」のミニ版ですが、短さが特徴ではなく、速報性と、それによって著者らが最も早く報告したと、プライオリティを主張できる点に意義があります。

「短報」を改めて「研究と報告」にするのは認められますが、その場合はさらに肉付けがなされ、データももっと詳しいものが付け加えられるべきです。

手持ちのデータを全部「短報」に出しておいて、まったく同じデータで再度、「研究と報告」として書くということは許されません。最初から「研究と報告」として出すべきです。

連載内容一覧

1. 表紙
2. 抄録
3. 本文
4. 謝辞
5. 文献
6. 図表の正しい書き方
7. 専門用語の表記
8. 不正行為
9. 二重投稿
10. COI
11. 本誌への投稿

【症例報告】

- ① その報告によって、疾患や障害の概念、およびリハビリテーションの技術がどの程度、拡大・発展させられるかが重要なのであって、「珍しさ」が必須条件ではありません。もちろん、同様な症例についての文献的考察は大切です。
- ② 「症例報告」というと、どうしても医学的な疾患による「症状がある例」を思い浮かべてしまいますが、本誌の読者には医療職だけでなく、心理職や、福祉職なども広範囲にわたりますので「症例報告」にはそれらの分野の「事例報告」も含まれます。

発表に値する症例報告として、「リハビリテーション技術やアプローチに新しいものを付け加える症例や事例」、「過去にあまり報告されなかった疾患や障害、問題を抱えた事例のリハビリテーション」、「リハビリテーションの効果や経過が思わぬ展開を示した症例や事例で、リハビリテーションを行ううえで有意義な示唆を与えるも

の」などが考えられます。

自分としては報告する価値のある症例だと思っても、他の人が興味をもってくれなければ意味がありません。また、自分では珍しいと思っても、既に発表されているということもあり得ますので、文献検索は必須です。

【調 査】

- ① リハビリテーションに関連して、明確な「目的」をもって調査が行われていることが必要です。
- ② 対象が新しいもの、ユニークで誰も実施していないような調査、また、情報として価値があると思われる調査であることが望めます。
- ③ また、リハビリテーション関連職種として知っておいたほうがよいと思われる事実が明らかにされるような調査であることが望めます。
- ④ 対象の選択基準や統計学的な手法を明確に記述すること、また「結果」に対する考察が必要です。

調査には実態調査、仮説探索型調査など、いろいろな調査があります。

仮説があつて、それが肯定でも否定でも調査データで検証された場合であれば、それは「研究と報告」になります。

単に数字の報告だけでなく「だからどうした？」という明確なメッセージをもっていることも必要です。

【総 説】

- ① 研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）に基づいて、いろいろな文献を整理し、到達点を明らかにしてそのなかから今後の研究課題や将来を展望するような方向が出てくるようなものが望めます。

- ② あるテーマについて総合的、批判的に文献をレビューし、科学的に論ずることが重要です。

まず、テーマを定めることが大切です。

この総説は、どのようなリサーチ・クエスチョンに対して答えようとするものであるのかをまず考えます。そして、その問いに対する関連文献を検索し、集めて読み、この総説では何が重要なメッセージとなるのかを考えて下さい。

文献の収集・選択の方法もシステムティック（体系的）であることが求められるようになってき

ています。Evidence-based medicine（EBM）のためには文献を批判的に吟味することが大切です。引用した文献のエビデンスの質を読者が判断できるように、対象者数や研究デザイン（横断研究か縦断研究か、など）がわかるように紹介する必要があります。

都合のよい文献だけを引用し、自己の主張を展開することは適当ではありません。

【紹 介】

新しいものの開発、新しい手順やシステム、また使ってみてどうだったか、などの事実を報告するものです。

必ずしも科学的に十分な根拠は揃っていないくてもよいのですが、論理的に記載されていなければいけません。

あること（もの）を「紹介」することが、誰にとって有用で、利益になるのかを考えてください。ユニークさも大事な要素です。

Q19 本誌への投稿論文の審査は？

A19 本誌への投稿論文は、編集委員会において慎重に審査されます。審査の結果、修正の必要がない、または修正が必要であっても軽微である論文は、そのまま採用となります。ただし、初回投稿でそのまま採用となる論文はほとんどありません。

研究デザイン、対象、方法のいずれにも問題がなく、修正が必要な点が比較的少ない論文であれば、審査で指摘された点が適切に修正されれば採用されます。

テーマの重要性や新奇性などの観点から掲載に値し、かつ研究デザイン、対象、方法などに問題があつても根源的でない論文であれば、審査結果は次の2つの場合に大きく分けられます。

1. 重大な問題点はないが、修正を求める点が多い場合。
2. 重大な問題点があるが、修正可能と考えられるので、修正を求める場合。このような論文では、比較的軽微な問題点については、重大な問題点が適切に修正されてから、指摘されることがあります。

いずれの場合も指摘された点が適切に修正され

なければ、再投稿していただいても不採用となる
ことがあります。

テーマ重要性や新奇性などの観点から掲載する
価値が見出せない論文，あるいは研究デザイン，
対象，方法などに根源的な問題がある論文は，残
念ながら不採用となります。

(上手なリハビリテーション論文の書き方 改訂版，総合
リハ39：89-94，2011より引用・改変)

Q20 再投稿する際の注意点は？

A20 再投稿する論文には，修正箇所の下線を引
き，査読コメントに対する回答書を添付し
てください。回答書には，すべての査読コメント
を記述したうえで，それぞれに対して修正の要点

を述べて，ページ番号と行番号を付して修正箇所
を引用してください。査読コメントが疑問形に
なっている場合，その回答内容を論文に反映させる
ように心がけましょう。査読者が質問した点に関
して読者も同じ疑問をもつことでしょう。回答書
がなくても論文が成立するようにしておくべきで
す。

査読コメントに従わない場合には，回答書に先
行研究などの根拠を示して，その理由を記述して
ください。

査読コメントで指摘していない点を修正するこ
とは控えましょう。そのような修正をする場合に
はその理由を回答書に記載してください。

修正後再投稿の場合も文字数は規定通り収めな
ければなりません。